（様式 2）

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

平成 25 年度～平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要

1　学校法人名　立教学院　　2　大学名　立教大学

3　研究組織名　アジア地域研究所

4　プロジェクト所在地　東京都豊島区西池袋 3-34-1

5　研究プロジェクト名　21 世紀海域学の創成
ー「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへー

6　研究観点　大学の特色を活かした研究

7　研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
上田　信	文学研究科	教授

8　プロジェクト参加研究者数　17　名

9　該当審査区分　理工・情報　　生物・医歯　　人文・社会

10　研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
上田　信	文学研究科・教授	当該海域と中国との関係の解明	研究代表・統括チーム
弘末　雅士	文学研究科・教授	南シナ海域の港市史研究	歴史学チームリーダー・南シナ海ユニット
栗田　和明	文学研究科・教授	インド洋を渡る人の移動の解明	文化学チーム・インド洋ユニット
竹中　千春	法学研究科・教授	インド洋をめぐる政治学研究	政治学チームリーダー・インド洋ユニット
豊田　由貴夫	観光学研究科・教授	太平洋海域文化の研究	文化学チームリーダー・太平洋ユニット
舛谷　鋭	観光学研究科・教授	当該海域における華人文化の解明	文化学チーム・南シナ海ユニット
大橋　健一	観光学研究科・教授	海域観光の史的研究	観光学チームリーダー・南シナ海ユニット
豊田　三佳	観光学研究科・准教授	海域における多様な人の移動の解明	観光学チーム・南シナ海ユニット
吉原　和男	アジア地域研究所・特任研究員	東タイ沿海部華人研究	歴史学チーム・南シナ海ユニット
高藤　洋子	アジア地域研究所・特任研究員	伝承と津波減災との関係の解明	文化学チーム・インド洋ユニット

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

大塚　直樹	アジア地域研究所・特任研究員	外邦図の地理学的分析	統括チーム・南シナ海ユニット
重松　伸司	追手門学院大学・名誉教授	海政学的情報資料の収集	歴史学チーム・インド洋ユニット
太田　淳	広島大学大学院・准教授	海域における移民と貿易の変容の分析	歴史学チーム・インド洋ユニット
中溝　和弥	京都大学大学院・准教授	インド沿海地域の政治動向の分析	政治学チーム・インド洋ユニット
堀本　武功	放送大学・客員教授	インド洋・ベンガル湾の海洋安全保障の分析	政治学チーム・インド洋ユニット
竹内　幸史	拓殖大学大学院・講師	インド・米国のインド洋政策についての検証	政治学チーム・インド洋ユニット
李　善　愛	宮崎公立大学・教授	東シナ海・日本海との比較研究	統括チーム・太平洋ユニット

＜研究者の変更状況（研究代表者を含む）＞

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
インド沿海地域の政治動向の分析	京都大学大学院・客員准教授	中溝　和弥	政治学チーム・インド洋ユニット

（変更の時期：平成 25 年 5 月 1 日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
京都大学大学院・客員准教授	京都大学大学院・准教授	中溝　和弥	政治学チーム・インド洋ユニット

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
インド・米国のインド洋政策についての検証	岐阜女子大学・客員教授	竹内　幸史	政治学チーム・インド洋ユニット

（変更の時期：平成 25 年 12 月 19 日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
岐阜女子大学・客員教授	拓殖大学大学院・講師	竹内　幸史	政治学チーム・インド洋ユニット

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
インド洋・ベンガル湾の海洋安全保障の分析	京都大学大学院・特任教授	堀本　武功	政治学チーム・インド洋ユニット

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

（変更の時期：平成 27 年 4 月 1 日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
京都大学大学院・特任教授	放送大学・客員教授	堀本　武功	政治学チーム・インド洋ユニット

11　研究の概要（※　項目全体を10枚以内で作成）

（1）研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【意義】南シナ海域、インド洋ならびに太平洋海域は、かつて「南洋」と呼ばれた。1940 年代に日本が南進政策を進めるなかで、「南洋」の情報を収集する必要から、当該海域でヨーロッパ植民地宗主国が作製した地図をもとに、日本陸軍は精度の高い外邦図（日本国内の地図に対して国外の地図の総称）を作製した。この「南洋」外邦図は、当該地域の地図の歴史において、測量に基づく全体的な地図である点で、画期的な意味を持っている。本学アジア地域研究所が所蔵する「南洋」外邦図は、5 万分の 1 の地図を中心とし、欠落がほとんどない貴重なコレクションである。外邦図には、当該海域で開発が本格化する前の原風景が記されている。本研究プロジェクトは、この外邦図を歴史的過去から連続する一断面として、1940 年代から現在、そして未来へと展開する起点として位置づけ、本研究所の所員の専攻を活かして学際的研究を進め、さらに学外の研究者を迎え、21 世紀を見据えた海域学の創成を目指すものである。

【目的】当該海域は、現在、さまざまな面で注目されている。シーレーンの安全保障や離島の領有権をめぐる政治的な緊張、大津波などの自然災害、経済成長にともなう景観の変容や環境問題の発生など、いずれも学際的な研究が求められている。本研究プロジェクトの目的は歴史・文化・政治・観光という 4 つの位相を立て、「南洋」外邦図をプラットフォームとして、多様な情報を地理情報システム（GIS）として構築し、当該海域に関する海域学研究の拠点とするとともに、情報センターとしての機能を持たせることである。

【特色】本学は 1950 年代に東南アジアを中心とする外邦図が寄贈されたところからも伺われるように、東西文化交流の研究者を有する当時としては数少ない大学の 1 つである。文学部史学科が「海域と大陸を軸にその歴史を広く深く洞察」すると謳っているように、海域世界を研究対象とする教員が所属し、海域に関する研究が蓄積されてきた。また、日本で最初に観光学部を設立し、海浜の観光についての知見を蓄積してきた。本研究プロジェクトの推進母体であるアジア地域研究所には、文学部・法学部・観光学部・異文化コミュニケーション学部などの専任教員が所員として所属し、学内外から多彩な研究者を特任研究員として擁して、研究の専攻領域の枠を越えた共同研究を進めてきた。この特色をさらに発展させ、本研究プロジェクトは学際的な研究、共同調査を実施し、総合学としての海域学の創成を目指す。

（2）研究組織

本学に設置されているアジア地域研究所の所員・特任研究員および学外研究者を構成員とし、下記の各チームのリーダーは所員から選出し、連携を緊密に取れる体制とする。研究分野に基づいたチームを横糸、海域を単位とするユニットを縦糸とする組織を編成する（参加研究者 17 名）。研究代表者である上田が、チーム代表者と日常的に連絡をとりあい、すべてのチームとユニットそれぞれが開催するフィールドワークや講演会などの企画から実施まで統括する。

統括チーム（代表：上田）はプロジェクトの全体を統括し、チーム間の連携を図るとともに、外邦図などの地図、「欧文アジア関係文献集成：東南アジア編」・「オランダ植民地各種図面

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

集」の整理などの作業を遂行している。具体的な研究は 4 つのチームが担う。歴史学チーム（リーダー弘末）は、史料に基づき、歴史という位相から外邦図にいたる景観の変化を跡づける。文化学チーム（リーダー豊田）は、フィールドワークなどの成果を地図に表現することを目指す。政治学チーム（リーダー竹中）は、海洋の国際政治・国際関係などの文献を収集し、海の戦争と平和の歴史的過程を分析する。観光学チーム（リーダー大橋）は本学独自の観光学の視点から海域における独自の研究をすすめ、海域学としての多様な観光情報を地図情報システム（GIS）に構築する。

プロジェクト全体としてはチームの枠を越えた交流を、盛んに展開する。各チームのリーダーは、上田が主催するミーティング（隔月 1 回程度）に参加するほか、電子メールを用いて日常的な連絡などを取り合う。また、全体打ち合わせ会（各年度 2 回）を開催し、研究参加者それぞれの研究の成果と方針の確認を行う。さらに、各海域ユニット、チームの成果は学術論文や共同印刷物、国際シンポジウムなどによって成果を情報公開していく。

リサーチアシスタント（RA）として若手研究者のべ 6 名を雇用し、資料整理・地図分析作業などを進め、学術的スキルの向上と学識の深化を合わせて進める。教育研究コーディネーター（PC 相当）1 名を雇用し、各チームの研究活動の遂行に関わる業務を担当させる。

（3）研究施設・設備等

研究施設・設備の詳細は「17.施設・装置設備の整備状況」を参照のこと。
池袋キャンパス 12 号館、ミッチェル館を活用し、研究を行った。

（4）研究成果の概要　※下記、13及び14に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

３年間にわたる研究の成果として、下記の６点を挙げることが出来る。

① 外邦図のデジタル化、GIS による複数のレイアーによる情報の分析が進んだ。

外邦図の保管環境を整え、整理を進めるとともに、大型スキャナーを購入して機動的に地図をデジタル化できるようになった。こうした基礎作業に基づき、GIS ソフトを活用して、歴史史料からの情報、フィールドワークの成果、文化事象の空間的な分析などが可能となった。

② 戦後の景観変化が生じる前の外邦図から、現状の背景を解明できた。

構想調書で意義として掲げた外邦図の活用という点について、1940 年前後に作成された外邦図を共通のプラットフォームとして、過去と現在の多様な情報を重ね合わせた結果、たとえば埋め立てによる海浜の後退がおきる前の地形・景観を復元し、現状に対する理解を深めることが可能となった。

③ 歴史・文化・政治・観光などの学際的な研究が達成された。

構想調書で目的の１つとして掲げた学際的な研究にもとづく海域学の創成という点について、海域ユニットごとに実施されたフィールドワークに学問的背景が異なる研究者・RA が参加することで、1 つの対象に異なる視点から光を当てることが可能となり、現場での学術的な討議のなかから、文化の重層性と現代政治の接合といった新たな視点が発見された。

④ 「欧文アジア関係文献集成：東南アジア編（以下「欧文集成」）」「オランダ植民地各種図面集」の整理を進めた。

多言語で記載されている欧文書籍・図面について、翻訳・整理を進めることで、広く活用される可能性が開かれた。これらの整理された情報は、本学の学術リポジトリーに掲載され、学内外の多くの研究者ならびに市民の利用が保証された。

⑤ 研究セミナー・公開講演会・公開シンポジウムを多く開催した。

国内での企画のみならず、海外でもシンポジウムを開催し、国際的にも成果を発信した。

⑥ 若手研究者の研究能力を向上させた。

テーマ調書で期待される成果として挙げた若手研究者の育成という点について、RA としてのべ 6 名の若手研究者をプロジェクトに参画させ、GIS 処理、欧文翻訳、フィールドワークなどの業務に参加させることで、多様な研究上のスキルを向上させるとともに、視野を広げること

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

ができた。

■平成 25 年度

Ⅰ．統括チーム

本研究所が所蔵する「南洋」外邦図整理の作業を進めた。外邦図の緯度経度を最新の地勢図と対応させ、今後の位置データに基づく GIS 構築のための基礎的なプラットフォームをネット上に構築し、研究者が常時アクセスできるようにした（パスワード管理）（別紙2参照）。また、所蔵外邦図の目録（別紙１１参照）を完成させ、外邦図を有する他の大学・研究機関に寄贈するとともに、学術リポジトリーで公開した。外邦図の整理とデジタル化により、GIS ソフトを活用した歴史史料からの情報、フィールドワークの成果、文化事象の空間的な分析などが可能となり、 学内外の要請に即応できるようになった（＊ＩC-4）。フランス極東学院から外邦図について問い合わせがあり、要望のあったベトナムのダラト、ニャチャンなどの地図のデジタルデータを提供した。地図は、特別展示ならびにカタログ（＊ＶP-1,別紙１０参照）に活用された。

「欧文集成」の内容が欧文多言語で記載されていたため、タイトル・目次などの翻訳を進めた。その成果も最終年度に学術リポジトリーに掲載した。

地図や「欧文集成」の整理の過程で浮かび上がった歴史的な景観の変化をどのように追跡するかといった検討課題を、各チーム、研究ユニットに割り当て作業を進め、有機的な研究の促進を図った。

Ⅱ．歴史学チーム

研究分担者の重松が 1960 年代から行っていたフィールドワークで撮った写真とフィールドノートを地図にリンクさせたことは、前近代から近代にかけてインド系・アルメニア系の商人が海域において形成したコミュニティと、出身地との関係を解明するうえで、大きな成果となることが明らかとなった。

海外調査として 3 月に、インドネシアのリアウ島、ジャワ島での調査を行い（団長：弘末）、海域における王権の成立過程、14 世紀の鄭和の南海遠征の現代的な位置づけに関する資料を収集した（＊ⅡP-4,P-5,B-1）。GPS 機能付きデジタルカメラで撮影した写真は、デジタル地図ならびに外邦図とリンクさせた。1 月に、台湾において調査を行い、南洋に展開している華人系住民のコミュニティ形成に関する史料を収集した。

以上により歴史学チームは、海域コミュニティの後背地と出身地との関係を踏まえた考察の枠組みを形成することができた。（＊ⅡP-4,P-5,B-4,B-6,B-8）

Ⅲ．文化学チーム

計画に掲げたインドネシアの作家プラムディヤ・アナンタ・トゥールの文学作品などの分析について、ポイントとなる記述を抽出する作業を行った （＊ⅢC-16,C-17 ）。海域におけるキリスト教の布教活動については、アジアにおけるキリスト教を研究している研究者とのネットワークを構築する過程の中で、カトリック教派の活動していた時期と地域に注目しキリスト教布教の展開過程を整理した。 その成果は翌年度に行われたアジア地域研究所主催のシンポジウムに反映された。（＊ⅢP-3）

5 月に行われたアジア地域研究所主催の公開シンポジウム「防災文化における文化の役割」の音声記録は、防災文化研究（津波の民間伝承）の調査につながる資料となり、次年度の防災文化研究（津波の民間伝承）の方向性の再確認となった（＊ⅢP-4 ）。

3 月に、香港調査を行い、アフリカ系商人の調査から海域世界の認識の変化が確認できた（＊ⅢB-7）。3 月から翌年度 4 月にかけて、インドネシアのバリ島において、ヒンドゥー新年ニュピの調査を行い、海域概念との関連を調査した。

Ⅳ．政治学チーム

国際政治・アジア地域研究の観点から、海域がどのような状況に置かれ、どのような課題

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

を抱えているのかという課題をテーマに共同で取り組んだ。

初年度として基礎的なデータ収集を開始し、関連する先行研究を把握し、オーラルな方法を含めて専門家からの情報収集に務めた。現代アジア研究の分析方法を共同で再検討する国際シンポジウム「アジアの市民社会と国家の間—民主主義は有効か」（1 月、京都大学）に本チームのメンバーも参加し、21 世紀海域学とインド洋の課題を考察する上での方法論的な検討を開始した。

これらの収集した情報をもとに、インド洋の国々の中からスリランカを最初の研究対象として選択し、3 月に現地調査を実施した（団長：竹中）。島国スリランカを視察し、多くの方々へのインタビューを実施した（＊ⅣP-10,P-25）。その際、外邦図の地理的な情報とすり合わせて、海岸線について画像と GPS データを中心に現在の地理情報を収集した。

Ⅴ．観光学チーム

当初計画に掲げた客船の国際航路について、20 世紀初頭の旅行案内書・旅行用地図等の文献資料による情報収集と検討を行った結果、航路のネットワークの把握からさらに発展させて、航路に支えられた人的なネットワークというテーマを立てた。人の移動や観光のためのもうひとつの重要なインフラストラクチャーとしてホテルおよび海浜リゾートを対象とし、これらの 19 世紀末から現在に至る変遷について調査研究を進め、アルメニア人ホテル事業者の存在と活動の重要性を明らかにした（＊ⅤB-7）。

12 月にはインドネシア・スラバヤにおいて、また 2 月～3 月にはマレーシア・ペナンにおいてアルメニア人ホテル事業者によって建設されたホテルの歴史と現状に関して現地調査を実施した。また、アジア海域に展開する海浜リゾートの歴史を、近年のアジア観光における重要テーマである医療やリタイアメントという観点から洗い直し、整理する中で、海浜リゾート成立の背景に西洋近代医学の多大な影響があることを明らかにした（＊ⅤP-2, P-3, P-4, B-3, B-4, B-5, B-6）。

Ⅵ．チーム全体の成果

12 月には公開シンポジウム「海域学の展望を拓く—過去から現在、そして未来」を開催し、平成 25 年度に行ったシンポジウム、研究セミナーの成果を、「研究報告書 1」（別紙5参照）にまとめ、アジア地域研究所所員会議にて報告・評価すると同時に次年度の研究に反映した。

南シナ海域・インド洋・太平洋海域の3研究ユニット

25 年度の予備調査、資料収集、海外の研究者とのネットワーク構築、外邦図・文献検討の結果、次年度は、4チームが共同して研究対象とする地域として、インドネシアのスマランとスラバヤ、ベトナムのホイアン、スリランカの海港、などのポイントを選び出した。

■平成 26 年度

Ⅰ．統括チーム

歴史・文化・政治・観光の4チームと共同し、資料の整理、デジタル化を進めた。昨年度パイロット的に選んだ、ジャワ島スマラン、ベトナムのホイアンを対象、デジタル地図と外邦図の重ね合わせ、ならびに GPS データをともなうデジタル写真の貼り込みの作業を終えた。これらのデータは、オープンソフトの GIS アプリケーション Q-GIS を用いて整理を行い、研究者に広く開かれたアーカイブとして平成 28 年度に開設することを目指している。インドネシアの港町であるスマランについて、調査で追跡した鄭和を祀る廟の行事を外邦図と重ね合わせたところ、戦後の都市開発によって見え難くなった行事との空間的な関連を明らかにできた。インドネシアのスラバヤ、ベトナムのホイアンなどの港町についても、 同様の成果を挙げた。

「欧文集成」については前年度に引き続いて、資料の整理、タイトル・目次などの翻訳作業を進めた。オランダの国立公文書館に収蔵されたアジア、太平洋の地図や景観図のコレクションである「オランダ植民地各種図面集」を購入し、その内容を確認した。その結果、風景画などのほかに、ジャワなどの現地文化独自の地図からオランダ人が作成した近代的測量図

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

が含まれていることが明らかとなった。

3 月には、RA1名をオランダ・イギリスに派遣し、カンボジアの対外関係、イギリス海峡植民地の交易に関する史料などを収集させた。

Ⅱ. 歴史学チーム

多様な出身地の人々を抱えた港市の社会統合のあり方を解明するために、シンポジウムとフィールドワークを行った。11 月には、国際シンポジウム「日本占領下の南洋」（別紙17参照）を行い、第二次世界大戦期の東南アジアを考察するために、政治・社会・文化・教育それぞれの研究者に登壇いただき、日本占領期に旧来の社会秩序が崩壊したことを検討した。

フィールドワークによる現地調査は、7 月にジャワ北岸の海港都市を訪問調査し、移住者やその末裔と出身地との関係の変遷について調査し、これらの成果を外邦図プラットフォームと関連づけ、GIS として構築した。またジャカルタ、スマラン、スラバヤの諸港を調査した（団長：弘末）。9 月にマレーシア、タイにおいて、華人の組織である宗親会などの現地調査を行い、資料を収集した。

Ⅲ. 文化学チーム

前年度に協力を仰いだアジアにおけるキリスト教の研究者を募り、7 月にアジア地域研究所主催のシンポジウム「アジアにおけるキリスト教」を開催し、他の地域におけるキリスト教の布教活動との比較検討をした（＊ⅢP-1,C-11）。

津波などの自然災害に関する民間伝承が減災にどの程度の効果があるのか、7～9 月には、スマトラ島西海岸地域において、津波などの自然災害に関する伝承の有無と伝承方法について調査し、民間伝承が災害に対する恐れと自然との共生の大切さを伝えていることが確認できた（＊ⅢP-2）。9 月には文学作品の舞台となった地域であるホーチミン、クアラルンプールにおいて現地調査を行い、華人文化圏の範囲が確認できた（＊ⅢC-10,C-12）。3 月には、ブルネイにおいて海域学に関連する資料収集を行うことができた。その結果、中国におけるアフリカ系商人の活動を調査し、海域圏を含めて、国境という障害が弱くなりつつあることを確認した（＊ⅢB-6）。

Ⅳ. 政治学チーム

インド洋を中心に 21 世紀のアジア地域の国際政治と広い意味での安全保障を再検討する上で、以下のような作業を共同で進めた。

「海の国際政治」の時代のインド洋とその周辺諸国の政治的な展開をどのように見極めるかについて、個々の研究を進めつつも公開研究会を開催し、広く専門家の見解を受容しながら、分析上の概念や理論枠組みについての検討を行った（＊ⅣP-6）。

海域沿海国の海洋に対する警備・軍事力、紛争処理のプロセスなどを調査し、現地調査に基づいた在住者の視点から人の安全保障を考える視座を構築するという課題について、ミャンマーを対象に 3 月に合同調査を実施した（団長：竹中）。ミャンマーでの現地調査に際して、外邦図を中心とした歴史的な地理情報と現地の状況をすり合わせ、位置データを入手してタグに整理していくための作業を実施した。

Ⅴ. 観光学チーム

前年度に明らかにすることができた研究上の視点や枠組みに基づいて、当初の研究計画に沿いながら、アジア海域に展開した観光客向け施設としてのホテルおよび海浜リゾートについて、前年度に実施した現地調査の成果を内外の諸研究と比較しながら理論的に検討した。ホテル事業者の社会文化的背景の重要性に着目し、アジア海域における文化的複合性がホテルという施設のもつ社会文化機能を支える重要な要素となっていることを明らかにした。前年度の研究で明らかとなったアルメニア人ホテル事業者の歴史的重要性に加え、20 世紀後半以降のアジア海域におけるホテル事業の展開において特徴的な役割を果たした事業者の多くが欧亜混血者であることも明らかになった。

海浜リゾートの具体的な事例の検討を行った。特にタイにおける海浜リゾートの史的展開

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

に着目し、アジア海域における観光の展開を医療・医学的価値観という視点から分析を行った（＊VP-2）。

寄港地と観光業について、多角的に検討が進み、当初の計画を達成した。

Ⅵ. プロジェクトの全体（南シナ海域・インド洋・太平洋海域の3研究ユニット）

南シナ・インド洋・太平洋という海域ユニットで、それぞれ前年度に引き続き現地調査を実施した。南シナ海域ユニットは、上記のジャワ北岸の海港都市におけるフィールドワーク（7月）を行い、オランダ人・アルメニア人・アラブ人などの海域コミュニティについて情報を収集した。上記のフィールドワークには、参加者が GPS 機能付きデジタルカメラを携行し、位置情報とともに画像を記録し、調査データを GIS 編成のために記録した。太平洋ユニットについては、戦前に日本が行った南洋の資源に関する各種の報告書を購入し、その内容の検討に着手した。

最終年度の総合的なシンポジウム開催に向けて、外邦図に関する研究セミナー「外邦図と水路図—成立の過程と活用の可能性—」を開催し、大学院学生を参画し、若手研究者の育成が図られた（別紙13参照）。

■平成 27 年度

Ⅰ. 統括チーム

デジタル地図と外邦図を重ね合わせる作業を継続するとともに、重松が提供した写真のデジタル化を踏まえて、その写真を地図にリンクさせる作業を行っている。本プロジェクトが海外調査で撮影した GPS データ付きのデジタル写真の整理と、地図へのリンクも、最終年度の作業として行う。また、「オランダ植民地各種図面集」の図版についても、その位置が確定できた図面について地図との関連を検討する。

資料の整理などの作業を継続して進め、「欧文集成」の目録など整理したデータを学術リポジトリーに登録し、一般の利用に資するために公開した。

6 月にはシンガポール南洋理工大学において、東南アジア史研究の泰斗であるアンソニー=リード氏、レイナルド=イレート氏などを招いて海外シンポジウム「“The Maritime Order and Social Integration in Southeast Asia”」（東南アジアにおける海域秩序と社会統合）を開催した。本プロジェクトが目指す「21 世紀海域学」が対象とする海域のハブともいえるシンガポールという場において、批判と提言を受けることができた（別紙20参照）。

11 月には宮崎にて全体会議を開催し、参加研究者の成果の報告を行い、海域の歴史的な変遷と現在の文化・政治・観光を空間的に結びつけるというプロジェクトの到達点を明らかとした。12 月には国際シンポジウムを開催し成果を問うた（別紙22参照）。シンポジウムの翌日に国際政治学・東南アジア史の研究者を外部評価者として招き、審査会を行った。

Ⅱ. 歴史学チーム

歴史的事象を GIS によって空間的に把握することを最終年度内にまとめるため、平成 25 年度・26 年度の研究成果を対象に整理を進め、いくつかの港市について現地調査の成果を地図に結びつけるなどの成果を上げることができた。

4 月に文化学チームのメンバーも交え、「近世から近現代にいたる海域世界の社会統合—外来系住民と現地社会」のシンポジウム（別紙19参照）を行い、移住者、商業ネットワーク、権力者と「海賊」、現地人女性と外来系住民の諸観点から総合的に検討した。

これらの検討の結果、南アジアや東南アジアさらに中国、太平洋地域を舞台に、アフリカ系住民、アルメニア系住民、華人系住民、ヨーロッパ系住民、アラブ系住民らが、港市を拠点に広範なネットワークを形成していることが明らかとなった。

平成 26 年度・27 年度のシンポジウムの成果に、政治学チームの調査による現状分析を加えることで、海域秩序が 1)植民地体制形成期、2)植民地体制確立期、3)日本軍政期、4)東西冷戦期、5)グローバリゼーション期の 5 段階を経て展開してきたことが明らかとなった。

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

Ⅲ．文化学チーム

前年度から継続して進めている文学作品 GIS を活用し、オイトンピンとプラムディアの作品について現地調査の成果と対照させた。ミッションの宣教記録をもとにして、現代における国民意識とキリスト教との関係について分析した。インドネシアの各地域、特に津波の常襲地域である地域の災害文化を探求することにより、現地の防災手法をまとめた。香港、広州、ジャカルタ、ベトナムにおいてアフリカ系商人の活動を調査し、東シナ海周辺における海域概念の変化を確認した。11 月に海域で取引され、海域アジア各地から発掘された貿易陶磁に関するシンポジウムを開催した（別紙２１参照）。3 月にはアジア地域研究所が共催し、共同運営する国際インドネシア華人研究会に運営委員として舛谷が出席し、東南アジアの海域世界で華人が大規模に活躍していることを前提に学会開催を実施した。この学会においてインドネシア華人のイメージについて報告を行った。

Ⅳ．政治学チーム

最終年度として、前年度までの研究成果を総合し、21 世紀海域学としてインド洋から太平洋におよぶアジア地域の海域をめぐる国際政治の展開を分析した。

第一に、初年度および 2 年度に行なった現地調査を基礎に、研究成果のとりまとめを進めるため、チームとしての公開での研究会を実施した。

第二に、国際的な発信を試みた。シンガポールで開催された統括チームの企画の海域学シンポジウムで堀本武功と竹中千春が研究報告を行った。12 月には国際シンポジウム「21 世紀アジアをめぐる海の国際政治－インド洋・ベンガル湾・南シナ海・東シナ海・太平洋－」を立教大学で開催した。このシンポジウムでは、21 世紀のインド洋をめぐる海の国際政治、東アジア・太平洋をめぐる海の国際政治、アジアのグローバル・シティから見た海の国際政治というテーマについて、本プロジェクトのメンバーに加え、海外の研究者をまじえて、活発な議論が展開された。

第三に、共同研究者各自も個別に海外での本研究プロジェクトの成果の公開に努めた。2 月堀本はインド防衛研究所(IDSA)主催アジア安全保障会議に参加し、Institute of Chinese Studies などでも研究成果の報告を行い（＊ⅣC-2）、海域学の観点からプレゼンテーションを行い、南インドにおける安全保障の議論のなかで抜け落ちていた海洋の重要性を提起して評価された。竹内は 3 月にミャンマーを再訪し、前回の調査をもとにした研究成果を報告し（＊ⅣC-1）、現地の専門家と意見を交換した。3 月チームリーダーの竹中は、インドのニューデリーおよびベンガル湾に臨むチェナイを訪問し、21 世紀海域学の研究成果を報告する作業を行なった。

第四に、研究成果を論文・著書として発表するための準備作業を進めている。まず、インド洋チームのメンバー全員が加盟する一般財団法人アジア政経学会の 2016 年春季研究大会（2016 年 6 月 18 日、千葉市開催）にて、竹中・堀本・中溝が登壇する自由応募分科会として「21 世紀インド洋をめぐる海の国際政治」を開催することになった。その内容は 5 月中旬以降、報告要旨・論文としてアジア政経学会の HP で公表する。さらにこの分科会を基礎に、学会誌『アジア研究』の特集号としての成果公開に応募する方針である。もう一つは、一般財団法人日印協会現代インド研究センター上級研究員の堀本の編集となる『現代日印関係史』（東京大学出版会、2017 年刊行予定）への貢献である。堀本・竹中とともに研究協力を行なったプルネンドラ・ジェイン、マドゥーチャンダ・ゴーシュ、ルパックジョティ・ボラーらの海外研究者が寄稿する予定である。

Ⅴ．観光学チーム

前年度までの研究成果を証するため、アジア海域におけるホテルおよび海浜リゾートに関する現地調査を実施し、その成果を踏まえて、アジア海域における観光の変容の解明と今後の観光に関するビジョンの提示という当初の研究計画に沿いながら、総合的な検討を行い下記の成果を達成した。

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

観光客の移動手段が海の客船から空の旅客機へと変化した 19 世紀末から現在にかけての観光の変容を明らかにするため、スリランカおよびインドネシア、タイにおいて現地調査を行った。ホテルの立地や建築様式、業態に変化のあったことを明らかにした上で、移動手段の変化にもかかわらずアジア海域においてホテル事業者がアルメニア人や欧亜混血者に代表されるように海域の文化的複合性を体現した存在であったことを明らかにし、その成果の一部をシンガポールで開催された国際研究集会で報告した（＊ＶC-1）。タイのフアヒンにおける海浜リゾート開発史から大衆化、グローバル化するアジア海域の観光の変容を明らかにした。

Ⅵ. プロジェクトの全体（南シナ海域・インド洋・太平洋海域の3研究ユニット）

4 チームの研究から以下の点が共通理解として明らかになった。まず、海域地域は交易の障害になるよりも交通路となる性格が強かったことが挙げられる。また海に対しては畏怖の念と憧憬の念が地域によって混在しており、一方で災害をもたらす存在として畏怖の対象となることもあれば、他方で、異人・異世界に対する憧れなど、憧憬の対象ともなることが明らかになった。こうした海域の特質は、現在の海域における安全保障、海域に展開しているリゾート開発などのありかたを根底で規定している。陸を中心とした 19 世紀型の「地政学」、20 世紀型の「地域研究」と異なる、新たな「21 世紀海域学」の全体像を提起する見通しが立った。

11 月に宮崎で全体研究会を開催し、研究成果を確認し、共有することで海域学という学際的な新領域の全体像を明らかとした。ここで示された「21 世紀海域学」の構想は、12 月に開催された「21 世紀アジア国際政治の変動と海域学の創成」と題した国際シンポジウムにおいて提示した。当該シンポジウムには海外からの研究者も招き、グローバルな新領域としてアピールすることができた。シンポジウムの記録は、平成 28 年度にアジア地域研究所のワーキングペーパーとしてまとめる予定である。

＜優れた成果が上がった点＞

平成 25 年度 アジアにおけるホテルの社会文化的意味の解明という新たな方法論的視座についてベルリンで開催された国際研究集会において大橋が発表し、その有効性を検討、確認することができた（＊ＶC-2）。

＜課題となった点＞

なし。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

本プロジェクトの提案部局であるアジア地域研究所において、各年度末に開催した所員会議の議案として本プロジェクトの実施報告と予算執行状況報告を行い、プロジェクトに加わっていない所員の点検を受けた。その結果、各年度とも予算執行は妥当であり、公開シンポジウム・外邦図カタログ作成・学術リポジトリーでの公開などが進んでいることが確認された。

＜外部（第三者）評価の実施結果と対応状況＞

平成 27 年度 12 月、立教大学において、外部の専門家の田村慶子氏（北九州市立大学法学部・教授、国際関係学）、永綱憲悟氏（亜細亜大学国際関係学部・教授、比較政治学）、鈴木恒之（東京女子大学・名誉教授、東南アジア史）の 3 名から評価を受けた。構想調書に記載した下記の5つの評価項目について、達成度を A～F（A:十分に達成された、B:達成された、C:ある程度は達成されたが不十分 D:達成されていない、F:行われていない）という 5 段階で評価した。その結果、以下のような外部評価が得られた。

評価項目

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

① 「南洋」外邦図のコレクションをネット上に公開し内外の研究者の利用に資する。
② 当該海域に関する歴史・民族学文献・海事関係文献・観光案内など多様な情報を、「南洋」外邦図をプラットフォームとして GIS により結びつけ、海域学を創成する研究環境を整える。
③ 当該海域における調査を通じて、現地研究者との国際学術交流を促進させる。
④ 若手研究者を本研究プロジェクトに参画させ、海域学の学際的視座を獲得させる。
⑤ 本プロジェクトで得られた知見を、学術論文・公開講演会・国際シンポジウム・学術リポジトリーなどの媒介を経て公開する。

	①	②	③	④	⑤
田村氏	A	A	A	A	A
永綱氏	A	A	A	A	A
鈴木氏	A	B	B	A	A

田村氏：海洋少数民族（バジャウ等）の知見も含めたら、もっと多様な見方がでたと思われる。海域に生活する人に資する「海域学」へと発展することが期待される。
永綱氏：「海域学」の展開可能性を示すことが必要。
鈴木氏：②について、海域学を創成するに「十分な」研究環境を整えるまでに至ったか、若干の疑問がある。③について、歴史学、政治学チーム以外に「国際交流」がなされているか、疑問がある。④について、各チームに関わるようなより多くの若手研究者が欲しい。
これらのコメントを真摯に受け止め、下記の＜展望＞で挙げたプロジェクトで対処する。
＜研究期間終了後の展望＞
① 本プロジェクトで整理を進めた外邦図を活用して、本学収蔵の諸資料を海域学として整理・分析する（平成 28 年度）。
本学の共生社会研究センター収蔵の鶴見良行コレクションなどを、海域学の視点から整理し、当該テーマに関する本学における拠点形成を促進する。鶴見コレクションは、『バナナと日本人』『ナマコの目』など、東南アジア・太平洋地域において、フィールドワークから現代的な鋭い問題提起を行っていた鶴見氏が常に身辺に起き続けてきたフィールドノート、研究文献カード、写真などが含まれている。これらの資料を、地図・海図と結び合わせるとともに、調査地を再訪し、その後の変化を追跡することが考えられる。
② グローバルな海域学の創成を行う。
本学の日本学研究所、アメリカ研究所、ラテンアメリカ研究所などとの連携を深め、海域学をグローバルなパラダイムにたたき上げるために、上記①の成果を踏まえ、平成 29 年度にはあらたな競争的研究資金の獲得を目指す。
＜研究成果の副次的効果＞
① 外邦図の活用
本プロジェクトで外邦図の保管環境が改善され、収蔵状況も明らかとなり、デジタル化も完成した。諸図およびカタログをネット上に公開し、研究目的で利用を進める環境が整った。本プロジェクトで購入した大判スキャナーを用い、研究・教育という目的に限定して、複写を認める体制を整えたい。
② 学術的な討議から発見された新たな視点
海域ユニットごとに実施されたフィールドワークに学問的背景が異なる研究者・RA が参加することで、1 つの対象に異なる視点から光を当てることが可能となり、現場での学術的な討議のなかから、海域という空間を介した学際的な視点が形成された。
インドネシアのリアウ島での王権の変遷を歴史と文化の両面から明らかに出来たこと、スマトラにおける現在の中国のいわゆる「真珠の首飾り」政策と、歴史上の鄭和の遠征に対す

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

る評価の揺らぎを見いだしたこと、津波に対する防災文化の調査で赴いたインドネシアのバンダアチェの調査で、津波の防災文化研究から、漁村の女性のカツオ加工による自助というあらたな発見があったこと、などが挙げられる。また、参加研究者のあいだの議論の中から、アルメニア人ネットワークの歴史的検討とアジアにおけるホテルの展開とアルメニア人経営者という観光学的な研究課題が結びついたことも、副次的な成果として特筆できる。
③ 海域学に基づくシンクタンクとしての提言
本プロジェクトが開催した各シンポジウムの終了後に、海洋政策に関する問い合わせが寄せられた。学内に本プロジェクトの参加研究者を軸にしたネットワークを形成し、海の安全保障などの議論する際に求められる政治的・経済的・軍事的な枠組みだけではすくい上げることの出来ない諸問題を検討するための学術的な知見を、論文などを介して提供する。

12 キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

（1） 外邦図　（2） デジタル・アーカイブ　（3） GIS
（4） シナ海域　（5） インド洋　（6） 南洋
（7） 安全保障　（8） 海域学

13 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）
上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付すこと。

Ⅰ統括チーム
＜雑誌論文＞

著者名	論文標題			
ＩP-1 上田信	鄭和とムハンマド・チョンホ―雲南碑文のナゾ―			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
ヒマラヤ学誌	有	17	2016 年	154-161

著者名	論文標題			
ＩP-2 李善愛（Sun-Ae II）	Clamming down			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
SAMUdRA	無	70	2015 年	20-23

著者名	論文標題			
ＩP-3 大塚　直樹	ホーチミンシティの「夢」空間――バックパッカー街点描			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
榧：国際関係・多文化フォトジャーナル	無	2	2015 年	12-19

著者名	論文標題			
ＩP-4 大塚　直樹	ベトナム社会主義のなかのホーチミンと観光実践			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
国際関係紀要	有	24-1/2	2015 年	131-142

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

著者名	論文標題			
ＩP-5 李善愛(Sun-Ae II)	Anthropological study on the role of gender in two Miyazaki fishing villages, Japan.			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
The Journal of the AsianFisheries Science(Special Issue)	有	27	2014 年	201-209

著者名	論文標題			
ＩP-6 上田信	ジャワ島における鄭和—海域学の視点で見る中国・インドネシア			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
善隣	無	443	2014 年	2-11

著者名	論文標題			
ＩP-7 上田信	一五世紀前半におけるムスリムの海と中国 ： いわゆる鄭和下西洋をめぐって			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
史学(三田史学会)	有	83(1)	2014 年	31-55

著者名	論文標題			
ＩP-8 大塚 直樹	語られないホイアン			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
榧：国際関係フォトジャーナル	無	1	2014 年	10-15

著者名	論文標題			
ＩP-9 大塚 直樹・丸山宗志・松村公明	旧サイゴン囲郭地区における行政機能の変遷と都市景観の特色			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立教大学観光学部紀要	無	16	2014 年	89-98

著者名	論文標題			
ＩP-10 大塚 直樹	メコンデルタ、アンザン省における種子生産組合の設立とその展開			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
国際関係紀要	有	23-1/2	2014 年	53-75

＜図書＞

著者名	出版社		
ＩB-1 大塚 直樹	朝倉書店		
書名		発行年	総ページ数
菊地俊夫・松村公明編著『文化ツーリズム学(よくわかる観光学		2016 年	200 ページ

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

3)『pp.67-79 文化ツーリズムとヘリテージツーリズム	刊行予定	

著者名	出版社		
ＩB-2 上田信	筑摩書店		
書名		発行年	総ページ数
貨幣の条件―タカラガイの文明史―		2016 年	372

著者名	出版社		
ＩB-3 上田信	講談社		
書名		発行年	総ページ数
シナ海域蜃気楼王国の興亡		2013 年	343

＜学会発表＞

発表者名	発表標題		
ＩC-1 丸山 宗志＜発表者＞・大塚 直樹	ホーチミンシティにおけるバックパッカーエリアの空間的特徴		
学会名		開催地	発表年月
地理空間学会第 8 回大会		筑波大学（茨城県）	2015 年 6 月

発表者名	発表標題		
ＩC-2 上田信	タカラガイ・雲南・帝国		
学会名		開催地	発表年月
歴史学研究会		慶応義塾大学（東京都）	2015 年 5 月

発表者名	発表標題		
ＩC-3 李善愛（Sun-Ae II）	Tideland's Development and Politics and Gender: The Case Study of Saemangeum in South Korea.		
学会名		開催地	発表年月
The 10th Indian Fisheries and Aquaculture Form (10ifaf) and 5th Global Symposium in Aquaculture and Fisheries(GAF5).Asian Fisheries Society		Lucknow(India)	2014 年 11 月

発表者名	発表標題		
＊ＩC-4 丸山 宗志＜発表者＞・松村 公明・大塚 直樹	都市機能の変遷からみた旧サイゴン中心部の空間的特徴――フランス統治期の旧版地図を手がかりに		
学会名		開催地	発表年月
地理空間学会第 7 回大会		立教大学（東京都）	2014 年 6 月

Ⅱ歴史学チーム

＜雑誌論文＞

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

著者名	論文標題			
ⅡP-1 吉原和男	流出した美術工芸品を買い戻す中国人・華人			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
都市問題	無	106(6)	2015 年	30-34

著者名	論文標題			
ⅡP-2 弘末雅士	東南アジア世界における奴隷			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
歴史と地理	無	684	2015 年	52-55

著者名	論文標題			
ⅡP-3 太田淳	認識のグローバルヒストリー：18-19 世紀マレー海域の海賊をめぐる言説			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
比較日本文化研究	無	8	2015 年	263-277

著者名	論文標題			
＊ⅡP-4 重松伸司	19 世紀マラッカ海峡檳榔嶋史略―海峡植民地における多民族社会の形成過程―			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
史学（三田史学会）	有	83(1)	2014 年	3-30

著者名	論文標題			
＊ⅡP-5 重松伸司	在横浜・神戸アルメニア人コミュニティ―A.M.アプカー商会論―			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
アジア学科年報（追手門学院大学アジア学科紀要）	無	7	2014 年	6-30

著者名	論文標題			
ⅡP-6 重松伸司	外洋と内ウミを結ぶ―インドのバックウオーター社会―			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
なじまぁ（立教大学アジア地域研究所）	無	4	2014 年	9-10

著者名	論文標題			
ⅡP-7 Ota Atsushi	Tropical Products Out, British Cotton In: Trade in the Dutch Outer Islands Ports, 1846-69.			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Southeast Asian Studies	有	2-3	2013 年	499-526

（様式 2）

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

＜図書＞

著者名	出版社	
＊ⅡB-1 太田淳	勉誠出版	
書名	発行年	総ページ数
東インド会社とアジアの海賊　東洋文庫編　pp. 66-106 貿易と暴力−マレー海域の海賊とオランダ人、1780−1820 年	2015 年	312

著者名	出版社	
ⅡB-2 弘末雅士	勉誠出版	
書名	発行年	総ページ数
東インド会社とアジアの海賊　東洋文庫編　pp. 107-135 ヨーロッパ人の植民地支配と東南アジアの海賊	2015 年	312

著者名	出版社	
ⅡB-3 弘末雅士	山川出版社	
書名	発行年	総ページ数
人喰いの社会史—カンニバリズムの語りと異文化共存	2014 年	227

著者名	出版社	
＊ⅡB-4 太田淳	名古屋大学出版会	
書名	発行年	総ページ数
近世東南アジア世界の変容−グローバル経済とジャワ島地域社会	2014 年	514

著者名	出版社	
ⅡB-5 重松伸司	「海域学」研究業績報告書	
書名	発行年	総ページ数
ベンガル湾海域文明圏の研究—アルメニアン・コミュニティの社会組織とその活動—　調査研究基礎資料	2014 年	75

著者名	出版社	
＊ⅡB-6 弘末雅士編著	春風社	
書名	発行年	総ページ数
越境者の世界史—奴隷・移住者・混血者 pp. 6-9, 278-296 総説 20 世紀前半期のインドネシアにおける現地人妻妾をめぐるイメージと男女関係	2013 年	310

著者名	出版社
ⅡB-7 岩波書店辞典編集部編 重松伸司	岩波書店

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

書名	発行年	総ページ数
岩波　世界人名大辞典、2 分冊　内、7 項目執筆 「イランゴー・アディハル」「シーッタライ・サーッタナール」「ティルヴァッルヴァル」「トルハーピヤール」「パルクリキ・ソーマナータ」「ナンビヤーンダル・ナンビ」「マーニッカ・ヴァーサガル」	2013 年	3610

著者名	出版社	
＊ⅡB-8 吉原和男編	丸善出版社	
書名	発行年	総ページ数
人の移動事典：日本からアジアへ、アジアから日本へ	2013 年	516

＜学会発表＞

発表者名	発表標題	
ⅡC-1 Atsushi Ota	Subtle Distance: Sea Peoples and States in Southwest Kalimantan, c. 1760-1850	
学会名	開催地	発表年月
the 2015 Association for Asian Studies (AAS) Annual Meeting	Chicago(USA)	2015 年 3 月

発表者名	発表標題	
ⅡC-2 Atsushi Ota	Piracy and Modernity in the Indian Ocean World: New Ideas on State and Sovereignty	
学会名	開催地	発表年月
EHESS Seminar	Paris(France)	2015 年 2 月

発表者名	発表標題	
ⅡC-3 弘末雅士	人喰いの語りと異文化共存―北スマトラの事例から	
学会名	開催地	発表年月
平成 26 年度東方学会秋季学術大会	奈良女子大学（奈良県）	2014 年 11 月

発表者名	発表標題	
ⅡC-4 重松伸司	Historical Transformation of the South Indian Village System― A Database of the Comprehensive Rural Survey of “I. Village”, Salem District―	
学会名	開催地	発表年月
東京外大 AA 研「前近代南アジアにおける中間的諸集団の再検討」	東京外大 AA 研本郷サテライト（東京都）	2014 年 3 月

発表者名	発表標題
ⅡC-5 Masashi Hirosue	The Rise of Muslim Coastal States in North Sumatra – Coastal Rulers and Powers over Hinterland Fertility –

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

学会名	開催地	発表年月
the Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks, State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia	Toyo Bunko(Tokyo)	2014 年 3 月

Ⅲ文化学チーム

＜雑誌論文＞

著者名	論文標題			
*ⅢP-1 豊田由貴夫	パプアニューギニアのキリスト教			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
なじまぁ（立教大学アジア地域研究所）	無	5	2015 年	8-9

著者名	論文標題			
*ⅢP-2 高藤洋子	先人の知恵に学ぶ防災インドネシア・シムル島およびニアス島の事例			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
21 世紀海域学の創成ー「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ」研究報告書	無	1	2015 年	5-57

著者名	論文標題			
*ⅢP-3 栗田和明	タンザニア人の国外での活動――『アジアで出会ったアフリカ人』外伝――			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
なじまぁ（立教大学アジア地域研究所）	無	4	2014 年	24-26

著者名	論文標題			
*ⅢP-4 高藤洋子	災害経験伝承が防災教育に果たす役割ーインドネシア・シムル島における事例を通じてー			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
社会貢献学研究	有	1(1)	2013 年	10-24

著者名	論文標題			
ⅢP-5 舛谷鋭	マレーシア華人文学と日本の戦争			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
コレクション戦争と文学	無	20	2013 年	9-12

＜図書＞

著者名	出版社

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

ⅢB-1 栗田和明編著	昭和堂	
書名	発行年	総ページ数
流動する移民社会――環太平洋地域を巡る人びと―― pp.1-31, 159-168 1章「移動する者から見た移民コミュニティ――広州へのタンザニア人交易人に注目して――」 7章「移動する人の現状と研究視点――移動の文化への注視――」	2016 年	208

著者名	出版社	
ⅢB-2 Yukio Toyoda		
書名	発行年	総ページ数
The Sago Palm: The Food and Environmental Challenges of the 21st Century pp. 321-324 Root cropping culture, in The Society of Sago Palm Society	2015 年	410

著者名	出版社	
ⅢB-3 Yukio Toyoda		
書名	発行年	総ページ数
The Sago Palm: The Food and Environmental Challenges of the 21st Century pp. 324-325 Social structure of the “sago palm culture zone”, in The Society of Sago Palm Society	2015 年	410

著者名	出版社	
ⅢB-4 豊田由貴夫	公益財団法人国土地理協会	
書名	発行年	総ページ数
学術研究助成報告集 pp. 37-45 外邦図コレクションの多面的利用とデジタル化に関する基礎的研究	2014 年	112

著者名	出版社	
ⅢB-5 豊田由貴夫	中部大学民族資料博物館	
書名	発行年	総ページ数
中部大学民族資料博物館連続講演記録 2013 pp. 154-181 パプアニューギニアの伝統と現在	2014 年	181

著者名	出版社	
*ⅢB-6 Kazuaki KURITA	In Rikkyo Institute for Peace and Community Studies	
書名	発行年	総ページ数
Proceedings International symposium on global migration and transnational activities in Pacific Rim pp35-44. How Tanzanians spend their transnational livelihood between Africa and Asia?’	2014 年	57

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

著者名	出版社	
*ⅢB-7 Kazuaki KURITA		
書名	発行年	総ページ数
In Proceedings of International Symposium on Socio-Cultural Change in Global Cities jointly organized by Center for Urban and Social Research, Korea. and Rikkyo Institute for Peace and Community Studies, Japan. Held on 20-21st Oct. 2013 at University of Soeul pp. 26-37 Africans in China and Thailand: Tanzanians' informal commercial activities spreading over Asia and Africa	2013 年	86

＜学会発表＞

発表者名	発表標題	
ⅢC-1 KURITA, Kazuaki	Tanzanian traders in South-East Asia: Cases in Guangzhou, Hong Kong, and Bangkok	
学会名	開催地	発表年月
The 5th Institute of African studies HK international conference	韓国外国語大学アフリカ研究所（韓国）	2015 年 10 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-2 Yukio TOYODA	Christianity or traditional culture?: Construction of national identity in Papua New Guinea	
学会名	開催地	発表年月
Waigani Seminar (University of Papua New Guinea)	Port Moresby (Papua New Guinea)	2015 年 8 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-3 Yukio TOYODA	People's attitude toward Social Development in Papua New Guinea	
学会名	開催地	発表年月
Grassroots Development for PNG Future: Japanese Researchers' Views from the long-term fieldwork in PNG	Port Moresby (Papua New Guinea)	2015 年 8 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-4 Satoshi MASUTANI	Dark Tourism to testify the resilience of Southeast Asia Experience in Japanese Occupation	
学会名	開催地	発表年月
ICAS9	Adelaide(Australia)	2015 年 7 月
発表者名	発表標題	
ⅢC-5 Satoshi MASUTANI	War Memory and National History: from Dark Tourism	

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

	Dimension	
学会名	開催地	発表年月
The Asian Association of World Historians Congress 2015	Singapore (Singapore)	2015 年 5 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-6 Satoshi MASUTANI	Cultural Heritage as Sustainable Tourism Resource	
学会名	開催地	発表年月
15th Science and Technology for Culture	Siem Reap (Cambodia)	2015 年 5 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-7 Satoshi MASUTANI	Asian Colonial Heritage as Dark Tourism sites	
学会名	開催地	発表年月
International Conference on Natural Resource Tourism and Service Management	Kota Kinabalu (Malaysia)	2015 年 4 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-8 Satoshi MASUTANI	Made in Malaysia via Formosa to Japan	
学会名	開催地	発表年月
Imaging Asia Sympo	Singapore (Singapore)	2015 年 1 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-9 KURITA, Kazuaki	How Tanzanians spend their transnational livelihood between Africa and Asia?	
学会名	開催地	発表年月
Global Migration and Transnational Activities in the Pacific Rim	台湾国立大学（台湾）	2014 年 10 月

発表者名	発表標題	
*ⅢC-10 Satoshi MASUTANI	Transnational Literature from Malaysia to Taiwan	
学会名	開催地	発表年月
9th International Malaysian Studies Conference	Terengganu (Malaysia)	2014 年 8 月

発表者名	発表標題	
*ⅢC-11 豊田由貴夫	パプアニューギニアのキリスト教	
学会名	開催地	発表年月
立教大学アジア地域研究所公開シンポジウム「アジアにおけるキリスト教」	立教大学（東京都）	2014 年 7 月

発表者名	発表標題
*ⅢC-12 舛谷鋭	左翼文学到旅台文学－海外马华文学研究

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

学会名	開催地	発表年月
第二届马来西亚华人研究国际双年会	KL(Malaysia)	2014 年 6 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-13 Yukio TOYODA	Melanesian Pidgin and grass roots identity: attitudes towards languages in Papua New Guinea	
学会名	開催地	発表年月
Pacificism: Die diskursive Konstruktion des Pazifiks Internationale Konferenz	Rikkyo University(Tokyo)	2014 年 6 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-14 KURITA, Kazuaki	Africans in China and Thailand: Tanzanians' informal commercial activities spreading over Asia and Africa	
学会名	開催地	発表年月
Socio-Cultural change in global cities	university of Seoul（韓国）	2013 年 10 月

発表者名	発表標題	
ⅢC-15 Satoshi MASUTANI	Malaysian Tourist to Japan	
学会名	開催地	発表年月
INTERNATIONAL CONFERENCE ON JAPAN STUDIES 2013	PJ(Malaysia)	2013 年 10 月

発表者名	発表標題	
*ⅢC-16 舛谷鋭	散居的文学、语言与文字：日本、台湾与马来西亚的个案比较	
学会名	開催地	発表年月
8th Conference of International Society for the Study of Chinese Overseas	PJ(Malaysia)	2013 年 8 月

発表者名	発表標題	
*ⅢC-17 舛谷鋭	马来西亚华人女作家的移民和意识转义	
学会名	開催地	発表年月
第八届海外人才与中国发展国际学术研讨会	武漢（中華人民共和国）	2013 年 5 月

Ⅳ政治学チーム

＜雑誌論文＞

著者名	論文標題			
ⅣP-1 中溝和弥	経済成長と宗教ナショナリズムー2014 年総選挙から見たインド社会			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
アジア研究	有	61(4)	2015 年	3-21

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

著者名	論文標題			
ⅣP-2 中溝和弥	【序言】「特集　現代アジアにおけるグローバル化と排他的ナショナリズム」			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
アジア研究	無	61(4)	2015 年	1-2

著者名	論文標題			
ⅣP-3 中溝和弥	【南アジア】耐え難い暑さと驚くべき多様性			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
社会科教育	無	678	2015 年	60-61

著者名	論文標題			
ⅣP-4 Nakamizo Kazuya	Democracy and Violence in India: the example of Bihar			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Crispin Bates, Akio Tanabe and Minoru Mio (ed), Human and Internatinal Security in India, Oxon, Routledge	無		2015 年	110-127

著者名	論文標題			
ⅣP-5 Takenori Horimoto	Why Abe's Security Package Has the Japanese up in Arms			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
The Wire (India's digital daily)	無		2015 年	online

著者名	論文標題			
*ⅣP-6 竹中千春	地域研究は国境を越えるか—21 世紀のアジア研究			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
地域研究	有	15(1)	2015 年	8-16

著者名	論文標題			
ⅣP-7 中溝和弥	選挙と村人－インド最貧州における民主主義の実践			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
地域研究	有	15(1)	2015 年	138-158

著者名	論文標題			
ⅣP-8 Chiharu Takenaka	A Japanese Perspective: The India-Japan Special Global Partnership and the United States			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
The Asan Forum	有		2015 年	Online

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

著者名	論文標題			
ⅣP-9 竹内幸史	気候変動対策で対米協調に転じたインド			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
東京財団ユーラシア情報ネットワーク	無		2015 年	Online

著者名	論文標題			
*ⅣP-10 竹内幸史	英雄利用し海洋進出―インド洋諸国への勢力拡大を図る中国			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
アエラ	無	11 月 17 日号	2014 年	53

著者名	論文標題			
ⅣP-11 竹内幸史	インドの新政権担うモディ首相の課題―偏狭なナショナリズムを避け、経済再構築と地域協力を			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
国際開発ジャーナル	無	9 月号	2014 年	54-55

著者名	論文標題			
ⅣP-12 Chiharu TAKENAKA	A Milestone for the Japan Association for Asian Studies (JAAS)			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
アジア研究	有	59	2014 年	6-8

著者名	論文標題			
ⅣP-13 竹中千春	バランス問われる対印外交－中印関係にらみつつ展開を			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
時事通信 e-World	無		2014 年	

著者名	論文標題			
ⅣP-14 竹中千春	モディ新政権と世界―日印関係のゆくえ			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
現代インドフォーラム 2014	有	秋季号	2014 年	20-26

著者名	論文標題			
ⅣP-15 Kazuya NAKAMIZO	Poverty and Inequality under Democratic Competition : Dalit Policy in Bihar,’ Tsujita Yuko (ed)			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

Inclusive Growth and Development in India: Challenges for Underdeveloped Regions and the Underclass, Basingstoke and New York, Palgrave-Macmillan	有		2014年	157-180

著者名	論文標題			
ⅣP-16 Takenori Horimoto	Ambivalent Relations of India and China: Cooperation and Caution			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Journal of Contemporary China Studies	有	3(2)	2014 年	61-92

著者名	論文標題			
ⅣP-17 Takenori Horimoto	India's political, economic potential			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Japan Times	無		2014 年	Online

著者名	論文標題			
ⅣP-18 堀本武功	インド人民党の大勝とモディ政権の行方			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
外交	無		2014 年	102-107

著者名	論文標題			
ⅣP-19 Takenori Horimoto	Between Friends			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
India Today	無	XXXIX No.23	2014 年	54-56

著者名	論文標題			
ⅣP-20 Takenori Horimoto	JAPAN'S FURTHER MILITARISATION: RE-INTERPRETATION OF ARTICLE 9 OF THE CONSTITUTION			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
East Asian Monitor	無	1(3)	2014 年	Online

著者名	論文標題			
ⅣP-21 堀本武功	モディ外交のゆくえ			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
現代インド・フォーラム	無	26	2014 年	11-19

著者名	論文標題
ⅣP-22 竹内幸史	スリランカでの中印の援助競争と日本

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
国際開発ジャーナル	無	5 月号	2014 年	32-35

著者名	論文標題			
ⅣP-23 竹中千春	13億人の将来託されたモディ氏－インド人民党圧勝の背景を探る			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
時事通信 e-World	無		2014 年	Online

著者名	論文標題			
ⅣP-24 竹中千春	平和の主体論―サバルタンとジェンダーの視点から―			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
平和研究	有	42	2014 年	1-18

著者名	論文標題			
*ⅣP-25 竹内幸史	中国・真珠の首飾り戦略と日本、インド①～⑤			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
東京財団ユーラシア情報ネットワーク	無		2014 年	Online

＜図書＞

著者名	出版社		
ⅣB-1 Takenori Horimoto co-authored with Purnendra Jain	Routledge		
書名		発行年	総ページ数
“Japan and the Indo-Pacific” in Priya Chacko ed., New Regional Geopolitics in the Indo-Pacific pp.26-42		2016 年	未定

著者名	出版社		
ⅣB-2 長崎暢子・堀本武功・近藤則夫	東京大学出版会		
書名		発行年	総ページ数
『現代インド 3 深化するデモクラシー』 現代インド外交は何を目指すのか		2015 年	356

著者名	出版社		
ⅣB-3 中溝和弥	東京大学出版会		
書名		発行年	総ページ数
『現代インド 3 深化するデモクラシー』pp. 219-243 「グローバル化と国内政治―グジャラート大虐殺とテロとの戦い」		2015 年	356

著者名	出版社

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

ⅣB-4 中溝和弥・石坂晋哉	東京大学出版会	
書名	発行年	総ページ数
田辺明生・杉原薫・脇村孝平編『現代インド1 多様性社会の挑戦』pp.305-332 「民主政治と社会運動—制度と運動のダイナミズム」	2015 年	392

著者名	出版社	
ⅣB-5 中溝和弥	昭和堂	
書名	発行年	総ページ数
石坂晋哉編『インドの社会運動と民主主義—変革を求める人びと』pp.164-199 「暴力革命の将来—インドにおけるナクサライト運動と議会政治」	2015 年	336

著者名	出版社	
ⅣB-6 Takenori Horimoto	Pentagon Press	
書名	発行年	総ページ数
Uttam Kumar Sinha ed., Emerging Strategic Trends In Asia pp. 15-25 Chapter 1 Power Transition in Asia	2015 年	309

著者名	出版社	
ⅣB-7 堀本武功	岩波書店	
書名	発行年	総ページ数
インド 第三の大国へ—〈戦略的自律〉外交の追求—	2015 年	208

著者名	出版社	
ⅣB-8 竹内幸史（共著）	法政大学出版局	
書名	発行年	総ページ数
脱原発の比較政治学 pp.227-245 第 12 章 開発と抵抗—インド	2014 年	282

著者名	出版社	
ⅣB-9 Takenori Horimoto & Lalima Varma	Manohar	
書名	発行年	総ページ数
India-Japan Relations in Emerging Asia	2013 年	299

＜学会発表＞

発表者名	発表標題	
*ⅣC-1 竹内幸史	ミャンマー新政権の外交と開発政策の課題	
学会名	開催地	発表年月
「インド洋諸国の開発ポリティクス」をテーマにした研究発表と意見交換会	ミャンマー開発研究所（ミャンマ	2016 年 3 月

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

	ー)	

発表者名	発表標題	
*ⅣC-2 Takenori Horimoto	Product of Rikkyo University Project on Maritime Studies Indian Ocean in India's Foreign Policy& US, China and Japan	
学会名	開催地	発表年月
中国研究所セミナー	中国研究所（インド）	2016 年 2 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-3 Takenori Horimoto	Paper "India's Thucydides Trap?"	
学会名	開催地	発表年月
The 7th INDAS International Conference Structural Transformation in Globalizing South Asia The Center for Contemporary India Area Studies	国立民族学博物館（大阪府）	2015 年 12 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-4 Takenori Horimoto	Paper "India's Wars: The Indo-Pakistani Wars and the India-China"	
学会名	開催地	発表年月
International Forum on War History The Termination of Wars in Historical Perspecitve organized by National Institute for Defense Studies	椿山荘（東京）	2015 年 9 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-5 Nakamizo Kazuya	Elections and Rural Society: A Comparative Study of Russia and India	
学会名	開催地	発表年月
International Council for Central and East European Studies, 9th World Congress, Makuhari, Japan	神田外国語大学（東京都）	2015 年 8 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-6 中溝和弥	インドにおけるポスト紛争状況	
学会名	開催地	発表年月
ポスト紛争期における社会の再編ー南アジアの事例から	京都大学（京都府）	2015 年 6 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-7 Chiharu Takenaka	Is India Rising? New BJP Government and Modi's Diplomacy	
学会名	開催地	発表年月
International Symposium on Asian Social, Political and Economic Transformations: A New paradigm?	Taipei(Taiwan)	2014 年 12 月

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

発表者名	発表標題	
ⅣC-8 中溝和弥	経済成長と宗教ナショナリズム：2014 年総選挙から見たインド社会	
学会名	開催地	発表年月
2014 年度アジア政経学会西日本大会	京都大学（京都府）	2014 年 11 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-9 中溝和弥	インド民主主義の危機－多数派支配の恐怖－	
学会名	開催地	発表年月
日本南アジア学会市民講座「グローバル化する世界の中のインド－モーディー新政権のゆくえ－」	東京大学（東京都）	2014 年 10 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-10 堀本武功	モーディー外交の行方―右翼的でプラグマティックな方向性か	
学会名	開催地	発表年月
日本南アジア学会市民講座「グローバル化する世界の中のインド－モーディー新政権のゆくえ－」	東京大学（東京都）	2014 年 10 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-11 Chiharu Takenaka	Shifting Nationalism in Global Asia: From State to Society?	
学会名	開催地	発表年月
International Symposium, Scaling the Nation-State: Religion, Language and Ethnicity in Contemporary Japan & Germany	Berlin(Germany)	2014 年 10 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-12 Kazuya NAKAMIZO	War on Terror and Domestics Politics: The Case of India	
学会名	開催地	発表年月
Asia Economic Community Forum	Incheon(Korea)	2014 年 9 月

発表者名	発表標題	
ⅣC-13 堀本武功	今後の日印関係の課題と展望～新政権の対日方針、日印両国間における政治・経済・安全保障面の課題と展望、わが国に求められる対応～	
学会名	開催地	発表年月
インド新政権の展望とわが国の対応	国際情勢研究所（東京都）	2014 年 7 月

発表者名	発表標題
ⅣC-14 堀本武功	インド外交は何を目指すのか

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

学会名	開催地	発表年月
日印協会他共催シンポ・インド総選挙の総括と新政権の動向	経団連ホール（東京都）	2014 年 6 月

発表者名	発表標題	
Ⅳ C-15 Takenori Horimoto	Continuity and Change of India's foreign relations	
学会名	開催地	発表年月
International Conference: Discussing India's Foreign Policy under the Modi Government	Kyoto University (Kyoto)	2014 年 6 月

発表者名	発表標題	
Ⅳ C-16 竹中千春	BJP モディ大勝—2014 年インド国民の選択	
学会名	開催地	発表年月
	日本記者クラブ（東京都）	2014 年 5 月

発表者名	発表標題	
Ⅳ C-17 中溝和弥	書評 Makiko Kimura, The Nellie Massacre of 1983: Agency of Rioters, New Delhi, Sage Publication, 2013	
学会名	開催地	発表年月
インド社会運動研究会	東京外国語大学（東京都）	2014 年 4 月

発表者名	発表標題	
Ⅳ C-18 竹中千春	Nationalism in Asia at the Age of Globalization: the Case of India from Comparative Perspective	
学会名	開催地	発表年月
	Copenhagen(Denmark)	2013 年 10 月

発表者名	発表標題	
Ⅳ C-19 竹中千春	境界を越える国際政治学-ジェンダー、サバルタン、グローバル	
学会名	開催地	発表年月
日本国際政治学会 2013 年度研究大会共通論題報告	新潟朱鷺メッセ（新潟県）	2013 年 10 月

Ⅴ観光学チーム

＜雑誌論文＞

著者名	論文標題			
*ⅤP-1 大橋健一	外邦図をめぐるフランス極東学院（EFEO）との学術協力			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
なじまぁ（立教大学アジア地域研究所）	無	5	2015 年	16-17

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

著者名	論文標題			
＊ＶＰ-2 豊田三佳	アジア新興諸国におけるメディカルツーリズム: グローバルに流動する患者と医療人材			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
観光研究所だより	無	10(2)	2014 年	8

著者名	論文標題			
＊ＶＰ-3 Mika Toyota	Ethnographic experiments in transnational mobility studies			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Ethnography	有	14(3)	2013 年	277-281

著者名	論文標題			
＊ＶＰ-4 Mika Toyota	Global track, national vehicle: Transnationalism in medical tourism in Asia			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
European Journal of Transnational Studies	有	5(1)	2013 年	27-53

＜図書＞

著者名	出版社		
ＶＢ-1 Mika Toyota	Routledge		
書名		発行年	総ページ数
Jillian M. Rickly-Boyd, Kevin Hannam and Mary Mostafanezhad (eds.) Tourism and Leisure Mobilities: Politics, Work and Play Confronting economic precariousness through international retirement migration: Japan's old-age 'economic refugees' and Germany's expoted grannies'		2016 年	288

著者名	出版社		
ＶＢ-2 Mika Toyota	Routledge		
書名		発行年	総ページ数
Tomoko Aoyoma, Laura Dales and Romit Dasgupta (eds.) Configuration of Family in Contemporary Japan Chapter 8 pp.107-119 Traditional' Families in Transnational Settings: Japanese Women in Balinese-Japanese Marriage		2014 年	198

著者名	出版社		
＊ＶＢ-3 Mika Toyota	Charles, C. Thomas Ltd.		
書名		発行年	総ページ数
Yushi Li (ed.) Global Aging Issues and Policies: Understanding		2013 年	384

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

the importance of comprehending and studying the aging process　Chapter 5 pp.91-108 Japan: Elderly care in a transnational context		

著者名	出版社		
＊VB-4 Mika Toyota	ISEAS		
書名		発行年	総ページ数
Francis Hutchinson and Johan Saravanamuttu (eds.) Catching the Wind: Penang in a Rising Asia, Singapore　Chapter 9, pp.167-185 Building a temporary second home: Japanese long-stay retirees in Penang		2013 年	218

著者名	出版社		
＊VB-5 豊田三佳	明石書店		
書名		発行年	総ページ数
田村慶子編『シンガポールを知るための 65 章』第 3 版 pp.169-172 医療ツーリズム政策、高齢化問題		2013 年	365

著者名	出版社		
＊VB-6 豊田三佳	丸善出版		
書名		発行年	総ページ数
吉原和男、蘭信三、伊像谷登士翁、塩原良和、関根政美、山下晋司、吉原直樹編『人の移動事典: 日本とアジア』pp. 384-385 メディカル ツーリズムの戦略		2013 年	528

著者名	出版社		
＊VB-7 大橋健一	丸善出版		
書名		発行年	総ページ数
吉原和男、蘭信三、伊像谷登士翁、塩原良和、関根政美、山下晋司、吉原直樹編『人の移動事典: 日本とアジア』pp.360-361 ホテルから見るアジア/アジアから見るホテル		2013 年	528

＜学会発表＞

発表者名	発表標題	
＊VC-1 Kenichi Ohashi	From “Colonial Hotels” to “Asian Resorts”: The Emergence and Development of Hotel Culture in the Asian Sea Area	
学会名	開催地	発表年月
International Workshop -The Maritime Order and Social Integration in Southeast Asia	NTU(Singapore)	2015 年 6 月

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

発表者名	発表標題	
＊VC-2 Kenichi Ohashi	Grand Hotels in Modern Asia: The Japanese Cases	
学会名	開催地	発表年月
International Workshop – Grand Hotels at the Fin de Siecle: Global Dimensions, Local Experiences.	Berlin(Germany)	2013 年 8 月

＜研究成果の公開状況＞（上記以外）

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
＜既に実施しているもの＞

アジア地域研究所　web サイト　URL: https://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/CAAS/

＜研究報告書＞
・2013 年度研究報告書1発行【別紙5参照】
・2014 年度研究報告書2発行【別紙6参照】
・2015 年度研究報告書3発行【別紙7参照】

＜シンポジウム、公開講演会等＞
■2013（平成 25）年度
1）　2013（平成 25）年度公開講演会
「海境のアジア、陸境のアジアー中国とインドの統合秩序ー」【別紙8参照】
日時：2013 年度 10 月 19 日
場所：立教大学池袋キャンパス 14 号館 D301 教室
司会：弘末　雅士（本学文学部教授・アジア地域研究所所員）
講師：重松　伸司（追手門学院大学・名誉教授）
参加者：30 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2013/10/13179/index.html

2）　2013（平成 25）年度公開シンポジウム
「海域学の展望を拓く―過去から現在、そして未来へ―」立教大学池袋キャンパス【別紙9参照】
日時：2013 年 12 月 22 日
場所：11 号館 A203 教室
司会：大橋　健一（本学観光学部教授・アジア地域研究所所員）
開会挨拶：豊田　由貴夫（本学観光学部教授・アジア地域研究所副所長）
報告：
・上田　信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
・太田　淳（広島大学大学院文学研究科　准教授）
・堀本　武功（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　特任教授）
パネルディスカッション：
・太田　淳（広島大学大学院文学研究科　准教授）
・堀本　武功（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　特任教授）
・弘末　雅士（本学文学部教授・アジア地域研究所所員）
・竹中　千春（本学法学部教授・アジア地域研究所所員）

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

・上田 信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
参加者：46 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2013/12/13707/index.html

3） 2013（平成 25）年度研究セミナー「南の島々と海の世界」
日時：2014 年 1 月 27 日
司会：上田 信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
講師：
・青柳 真智子（本学名誉教授・アジア地域研究所所員）
・梅原 弘光（本学名誉教授・アジア地域研究所所員）
・小西 正捷（本学名誉教授・アジア地域研究所所員）
参加者：15 名

4） 2013（平成 25）年度研究セミナー「ギュツラフと東・東南アジアにおけるプロテスタント布教」
日時：2014 年 2 月 21 日
講師：倉田 明子（アジア地域研究所特任研究員）
参加者：8 名

■2014（平成 26）年度
1） 2014（平成 26）年度研究セミナー「外邦図と水路図―成立の過程と活用の可能性－」【別紙13参照】
日時：2014 年 5 月 17 日
場所：立教大学池袋キャンパス 12 号館地下第 1・2 会議室
司会：上田 信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
講師：
・小林 茂 氏（大阪大学 名誉教授）
・今井 健三 氏（日本水路協会）
参加者：30 名

2） 2014（平成 26）年度公開講演会
（共催：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」）
「ヨーロッパ、海域、そしてユーラシア：近代以前の世界」【別紙14参照】
日時：2014 年 5 月 30 日
場所：立教大学池袋キャンパス 4 号館 4402 教室
司会：上田 信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
講師：
・佐藤 彰一 氏（日本学士院会員・名古屋大学名誉教授）
・深沢 克己 氏（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
参加者：120 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2014/05/14187/index.html

3） 2014（平成 26）年度公開シンポジウム「南洋と沖縄」【別紙15参照】
日時：2014 年 6 月 21 日

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

場所：立教大学池袋キャンパス 8 号館 8202 教室
司会・開会挨拶：上田　信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
基調報告：豊田　由貴夫（アジア地域研究所副所長、観光学部教授）
事例報告：
・藤林　泰　氏（元埼玉大学教授）
・小西　潤子　氏（沖縄芸術大学教授）
対談
・瀬名波　孝子　氏（沖縄芝居演者）
・伊良波　さゆき　氏（沖縄俳優協会会員）
・細井　尚子（アジア地域研究所所員、異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部教授）
参加者：32 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2014/06/14563/index.html

4）　2014（平成 26）年度公開講演会
「沖縄芝居に見る大衆娯楽の『近代』―瀬名波孝子の芝居人生―」【別紙１６参照】
日時：2014 年 6 月 22 日
場所：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館 3 階多目的ホール
講師：瀬名波　孝子　氏（沖縄芝居演者）
参加者：22 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2014/06/14568/index.html

5）　2014（平成 26）年度公開シンポジウム「日本占領下の南洋」【別紙１７参照】
日時：2014 年 11 月 16 日
場所：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館 3 階多目的ホール
司会・開会挨拶：上田　信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
報告：
・KRATOSKA,　Paul（クラトスカ、ポール）氏（国立シンガポール大学教授）
・後藤　乾一氏（早稲田大学名誉教授）
・松永　典子氏（九州大学教授）
・姫本　由美子（アジア地域研究所特任研究員）
パネルディスカッション進行：豊田三佳（アジア地域研究所所員、観光学部准教授）
閉会挨拶：弘末　雅士（本学文学部教授・アジア地域研究所所員）
参加者：63 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2014/11/15249/index.html

■2015（平成 27）年度
1）　2015（平成 27）年度公開シンポジウム
「近世から近現代にいたる海域世界の社会統合―外来系住民と現地社会」【別紙１９参照】
日時：2015 年 4 月 25 日
場所：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館 3 階多目的ホール
司会：上田　信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
開会挨拶：弘末　雅士（アジア地域研究所所員、本学文学部教授）

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

報告：
・重松　伸司（追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所所長、名誉教授）
・太田　淳（広島大学大学院文学研究科准教授）
・弘末　雅士（アジア地域研究所所員、本学文学部教授）
・山口　元樹 氏（日本学術振興会特別研究員 PD）
・豊田　由貴夫（アジア地域研究所副所長、本学観光学部教授）
・吉原　和男（アジア地域研究所特任研究員）
・栗田　和明（アジア地域研究所所員、本学文学部教授）
モデレーター：竹中　千春（アジア地域研究所所員、本学法学部教授）
閉会挨拶：上田 信（本学文学部教授・本研究所所長）
参加者：61 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2015/04/15768/index.html

2） 2015（平成 27）年度国際シンポジウム
「International Symposium, “The Maritime Order and Social Integration in Southeast Asia”（東南アジアにおける海域秩序と社会統合）」【別紙20参照】
日時：2015 年 6 月 27 日
場所：シンガポール南洋理工大 華裔館 2 階ホール
開会挨拶：上田 信（本学文学部教授・本研究所所長）
報告：
・弘末 雅士（アジア地域研究所所員、文学部教授）
・Koh Keng We 氏（南洋理工大学,Nanyang Technological University）
・Reynaldo Ileto 氏（南洋理工大学,Nanyang Technological University）
・竹中 千春（アジア地域研究所所員、法学部教授）
・堀本 武功 （放送大学客員教授）
・Wong Chee Meng 氏（南洋理工大学、Nanyang Technological University）
・舛谷 鋭（アジア地域研究所所員、観光学部教授）
モデレーター：
・Zhou Min 氏（南洋理工大学,Nanyang Technological University）
・豊田 由貴夫（アジア地域研究所副所長、観光学部教授）
・Lim Boon Hock 氏（南洋理工大学,Nanyang Technological University）
講演及びディスカッション：Anthony Reid 氏（シンガポール国立大学前教授）
参加者：40 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2015/06/16336/index.html

3） 2015（平成 27）年公開講演会
「貿易陶磁と文献史料から東アジア・東南アジアの歴史を考える —16 世紀・17 世紀を中心とした海域におけるヒト・モノの流れ」【別紙21参照】
日時：2015 年 11 月 14 日
場所：立教大学池袋キャンパス・太刀川記念館 3 階多目的ホール
司会：上田 信（本学文学部教授・アジア地域研究所所長）
趣旨説明：弘末 雅士（本学文学部教授、アジア地域研究所所員）
報告：

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

・坂井 隆 氏（国立臺灣大学芸術史研究所 副教授）
・金沢 陽 氏（出光美術館 学芸員）
・宮田 絵津子（立教大学アジア地域研究所 特任研究員）
・久礼 克季（立教大学アジア地域研究所 特任研究員）
・伊川 健二 （本学兼任講師、成城大学非常勤講師）
総合討論 ﾓﾃﾞﾚｰﾀｰ：弘末 雅士（本学文学部教授、アジア地域研究所所員）
閉会の挨拶：上田 信（本学文学部教授、アジア地域研究所所長）
参加者：25 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2015/11/16814/index.html

4） 2015（平成 27）公開シンポジウム
「21 世紀アジアをめぐる海の国際政治 －インド洋・ベンガル湾・南シナ海・東シナ海・太平洋－」【別紙22参照】
日時：2015 年 12 月 12 日
場所：立教大学池袋キャンパス 14 号館 D501
第1セッション：21 世紀のインド洋をめぐる海の国際政治
司会：中溝和弥 （京都大学大学院アジア・アフリカ研究科准教授）
報告：
・堀本 武功 （放送大学客員教授）
・Rupakjyoti Borah 氏（台湾 国立中興大学招聘研究員）
・竹内 幸史 （立教大学アジア地域研究所特任研究員）
討論者：竹中千春 （本学法学部教授、アジア地域研究所所員）
第2セッション：21 世紀の東アジア・太平洋をめぐる海の国際政治
司会：竹中 千春 （本学法学部教授、アジア地域研究所所員）
報告：
・Purnendra Jain 氏（アデレード大学教授）
・藤原 帰一 氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
・高原 明生 氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
討論者：劉 傑 氏（早稲田大学大学院社会科学研究科教授）
第3セッション：21 世紀アジアのグローバル・シティから見た海の国際政治
司会：倉田 徹 （本学法学部准教授、アジア地域研究所所員）
報告：
・HENG Yee Kuang 氏（国立シンガポール大学リークアンユー公共政策研究科准教授）
・沈 旭暉 氏（香港中文大学社会科学院 副教授）
討論者：田村 慶子 氏（北九州市立大学法学部教授）
参加者：81 名
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/events/2015/12/17055/index.html

＜これから実施する予定のもの＞

なし

14 その他の研究成果等

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1312005

・*フランス極東学院ベトナムダラット展覧会「Đà Lạt – Et la carte créa la ville…」図録抜粋【別紙１０参照】

・*立教大学アジア地域研究所 2014『立教大学所蔵　外邦図目録』立教大学アジア地域研究所, p. 131【別紙１１参照】
学術リポジトリ URL:
https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=11357&item_no=1&page_id=13&block_id=49

・「ヨーロッパ、海域、そしてユーラシア　近代以前の世界」発行
立教大学立教リポジトリURL:
https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10872&item_no=1&page_id=13&block_id=49

１５ 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

＜「選定時」に付された留意事項＞

該当なし

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞

＜「中間評価時」に付された留意事項＞

該当なし（３年間の研究のため中間評価を受けていない）

＜「中間評価時」に付された留意事項への対応＞